

新年礼拝「神の助けとはどんな助けか？」

メッセージノート(2023 .1.8)

詩篇121篇「都上りの歌」¹私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。²私の助けは、天地を造られた主から来る。³主はあなたの足をよろけさせず、あなたを見守る方はまどろむこともない。⁴見よ。イスラエルを見守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。⁵主は、あなたを見守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。⁶昼も日が、あなたを打つことがなく、夜も月が、あなたを打つことはない。⁷主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。⁸主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

問い 2023年、あなたの助けはどこから来るのか？もちろん神から来るとわかっている。しかし、それを自分のものとして日々生きる力とするには、単なる頭の理解だけでは十分ではない。では、どうしたらよいか？

◆ 意識的に耳を傾けるものを選ぶ

私たちは、意識していないと否定的な雑音に平安は奪われる傾向がある(120篇の祈りを確認してみよう)。

詩篇 120:2,7 主よ、偽りのくちびるから、欺きの舌から、わたしを助け出してください。…私は平和を愛しますが、彼らは戦いを好みます。彼らのどなり声に、私の声もかき消されてしまいます。

- ・ 攻撃を仕掛けて来る敵もいたろうが、これは「都上りの祈り」なので、心の中で聞こえて来るサタンの攻撃(内から聞こえて来る否定的な声)によって神の御声や平安がかき消されそうになっている状況と考える。
- 私たちも新年を迎えて気持ちを切り替えて進もうと思いつつも、内側から聞こえて来る否定的な声に平安を奪われる。それゆえ、詩篇121篇から学びたい。
- ◇ あなたの心は、今どこを見ているのか？どこにあなたの心の目を注視させようとしているのか？

箴言4:23 何よりも、あなたの心を守りなさい。心は生活全体に影響を与えるからです。

- ・ 「考えが言葉に、言葉は行動に、行動は習慣に、習慣は人格に、人格は運命を形成する。」(サムエル・スマイル)

◆ 状況 「私は山に向かって目をあげる」(1)から始まる 121 篇。

- ・ この山とは、シオンの山々のこと、すなわちエルサレム神殿を指すと思われる。年一度の礼拝を捧げるために、遠路はるばるやって来て、遠方にエルサレムが見えて来たというところだろう。(→地形について)
- ・ 今見たように、礼拝に来ているにもかかわらず、心は100%神へ向かっているのではなく、心を占めている問題によって乱されている。「あれはどうしよう」と礼拝の前にあれこれ考えていたのだ。

それゆえ、詩人はここで、自らの心に語る。「私の助けは、天地を創造された神から来るのだ」(2)。

- ・ この信仰告白は、信仰者本人にとっても非常に重要な宣言である。思いを言葉にすることにより、その言語化が、行動を生んでいくからだ。意識を働かせていることの重要性。
- 2023年、何か不安に襲われた時、まず私たちがすべきことは、意識的にこの世界の造り主である神に目を向け、神の御声だけに耳を傾けることを決意しよう。

- ◆ キーワード:「助けは主から」主に目を留める時必ず助けが来る約束されている。「エゼル(助け)・イム(with)・ヤーウエ(主)」=助けは主から(主と共に)」というシンプルな表現は、明確さと共にその約束の絶対さを際立たせる。cf. 参考)「インマヌエル」が「イム(with)・ヌー(私たち)・エル(神)」

- これは、自分の立場やアイデンティティを明確にする信仰告白である。あなたは2023年、主があなたの問題を解決して下さるお方であると確信していますか？

主の「助け」とは、どのような助けなのか？

1. 徹底的に寄り添う

- ・ 「助け」(エゼル)(1,2) 「対の」「好対照の」「補完し合う」という意味。「配偶者」、「パートナー」という意味にもなる。質や感覚を同じにし、互いを補完し合うものという意味。すなわち、「助け」は、神にしか提供できない「ピッタリ」の「最善の」「タイムリーな」「なるほどと納得させられる」という形で提供される。
- ・ 「よろけさせず」(3) 「しびれる」「(担ぎ)棒・バー」「くびき」の意味で、一緒にくびきを負って、為すべきことを全うさせてくださるということ。マタイ11:28ff.と関連している。
マタイ 11:28-31²⁸ *すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。²⁹ わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。³⁰ わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。*
- ・ 「私の右の手をおおう陰」(5) 主ご自身が、隣にいて盾となっていてくださる。The Lord himself watches over you! The Lord stands beside you as your protective shades.(NLT)
➤ 今年一年どんな課題や問題であっても、主はあなたに肩をかし、一緒に寄り添い、時に支えてくださる。

2. これまでも見守り続けてきた

- 「見守る(シャマル)」(3,4,5) 「あなたを見守る方」「イスラエルを見守る方」と3回出て来るが、聖書には450回も出て来て、旧約聖書39巻のほとんどの登場する神の特徴を現わす言葉。
- ・ その見守り方は、「まどろむこともなく、眠ることもない」(4)。「寝ずの番」のことで、特にエジプトを脱出する晩に神様がイスラエルにされたことが念頭にあり、原点や基準となってきた。息をのむような場面で、ひと時も目を離さず傍らで見守っていてくださるお方であるという理解。
 - ・ 「昼も日が…夜も月が打つことなく」(6) 厳しい砂漠という環境で過ごすことができた40年間は、奇跡以外の何物でもない。神は、雲の柱が灼熱の太陽光線から、火の柱が夜の寒さからイスラエルを守った。衣服もサンダルも古びず、水、食料も毎日与えられ、さらには、外敵からも守られた。
- 私たちの人生でも、いつも主は私たちの心の状態にも気を配っておられ、私たちが不安を覚える人生の暗闇や危険な状態にいる時にも一緒にいて励まし、救い出してきてくださった。昨年神が与えてくださった「見守り」(霊的指導も含めて)には、どんなことがあっただろうか？

3. これからも必ず助ける

神の助けは、過去の遺物や思い出ではなく、これからの希望と確信でもある。

- ・ 「わざわざい」とは、最も広く一般的に用いられるわざわざいに関する用語で、文字通り人生において経験するあらゆる種類のわざわざいから守られるということ。
 - ・ 「とこしえに」とは「前に向かって」、「ずっと」を表す2つの言葉から成り立っている。神の助けはこれからも永遠に提供され続けるということを強調している。私たちの将来は必ず守られているということ。
- この神の将来に渡る守りを確信するために、昨年を振り返り、神の守り方を確認し、今年神はあなたに何を求めておられるのかについて考える時間を取ることをお勧めする。(聖書、去年の手帳、日記、ノート)
- 季節の移り変わりに、一旦立ち止まって、神が今自分に何を教えようとしているのかということに耳を傾けることは重要なことだ。イエスも十二弟子を選ぶのに徹夜して祈っておられた。